



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

2. 7月下旬頃に成熟する黄肉のモモ新品種「岡山PEH11 号」の育成

[要約]

7月下旬頃に成熟し、マンゴーの様な香りを呈する黄肉のモモ新品種「岡山PEH11 号」を育成した。本品種は、果肉が黄色くて果皮着色が少なく、花粉を有する。また、糖度が高く、食味が優れ、生理障害の発生が少ない特性である。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

モモの白肉種が主体で栽培されている岡山県では、晩生の「黄金桃」を除いて黄肉種の栽培は少ない。一方で、黄肉のモモは、全国的に消費者や市場から根強いニーズがある。そこで、多様化する消費者ニーズに対応するため、7月下旬頃に成熟し、生理障害の発生が少なく高品質な黄肉のモモ新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 本品種は「もちづき」に「つきあかり」を交配し、得られた交雑実生個体について選抜して、育成した黄肉種の品種である。肉質はち密で、マンゴーの様な香りを呈する（データ省略）。
2. 開花期は「清水白桃」より1日程度遅く、花粉を有する。収穫盛期は7月下旬頃で、「清水白桃」より3日程度遅い。核は粘核で、核割れや生理的落果は少ない（表1）。
3. 果実重は315g程度で、糖度及び果実硬度は「清水白桃」と同等である。裂皮及び赤肉症の発生は同等で、水浸状果肉褐変症の発生が少ない。果皮着色の程度は「清水白桃」より小さい（表2、図1）。
4. 生産者による「岡山PEH11 号」の栽培の意向は、7割程度が「積極的に導入したい」または「どちらかといえば導入したい」の評価であり、普及が見込まれる（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「岡山PEH11 号」の名称で令和8年2月16日に品種登録された（第31562号）。
2. 調査を実施した令和4、5及び6年度における供試樹の樹齢は、「岡山PEH11 号」がそれぞれ8、9及び10年生、「清水白桃」がそれぞれ12、8及び9年生である。いずれの年も両品種ともオレンジ果実袋（無底）で被袋した。
3. 若木期は果実が小さい傾向である。
4. 県内における本品種の栽培適性を評価するため、県内10か所で現地適応性試験を実施している。
5. 苗木は当面県外へ供給しない。



[具体的データ]

表1 「岡山PEH11号」の生育特性

品種 ^z	開花盛期 (月/日)	収穫盛期 (月/日)	花粉 有無	核の 粘離	核割れ果 率(%)	生理的落果 率(%)
岡山PEH11号	4/4	7/25	有	粘	18.3	0
清水白桃	4/3	7/22	有	粘	41.7	22.6

^z 岡山PEH11号：育成地における令和4～6年の平均値（8～10年生、1樹）

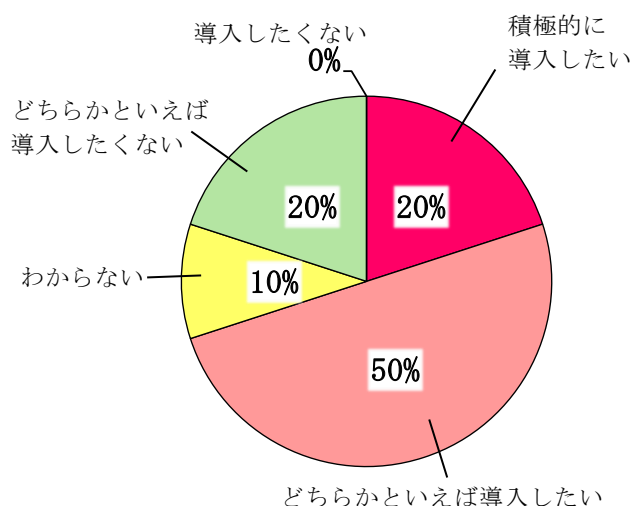
清水白桃：育成地における令和4～6年の平均値（12年生、8～9年生、2樹ずつ）

表2 「岡山PEH11号」の果実品質及び生理障害

品種 ^z	果実重 (g)	糖度 (° Brix)	果皮 着色	果実硬度 (kgf)	裂皮 ^y	水浸状果 肉褐変症 ^y	赤肉症 ^y
岡山PEH11号	315	13.7	無	0.8	0.1	0.22	0.16
清水白桃	348	13.7	微	0.7	0.2	1.10	0.30

^z 岡山PEH11号：育成地における令和4～6年の平均値（8～10年生、1樹）

清水白桃：育成地における令和4～6年の平均値（12年生、8～9年生、2樹ずつ）

^y 0:無、1:微、2:少、3:中、4:多の5段階で達観評価図1 「岡山PEH11号」（左）及び
「清水白桃」（右）の果実外観図2 「岡山PEH11号」の生産者による
今後の栽培の意向

[その他]

研究課題名：県育成モモ新品種の高品質安定生産技術の開発

予算区分・研究期間：県単・令6～10年度

研究担当者：鵜木悠治郎、樋野友之、佐々木郁哉、吉村諒介